

令和4年度 園の自己評価および学校関係者評価

ひしのみこども園では、教職員と保護者のみなさんに、「ひしのみこども園の教育と保育及び運営」について、アンケート調査を行い、それに基づいて、園の自己評価を行いました。また、自己評価の客観性を高めるために、学校関係者評価委員会を設け、部外者評価を実施しました。
この貴重な結果を大事にして、令和5年度に臨みたいと思います。

令和5年3月 ひしのみこども園 園長 今 泉 弘

1. 園の保育と教育の目標

「子ども一人ひとりの主体的、創造的活動を促すとともに集団生活をとおして、思いやりの心や社会性を身につかせ、生きる力の基礎を培う」

2. 求める子どもの姿

優しく	賢く	逞しく
<ul style="list-style-type: none"> 感性豊かな子 協同して遊び互いに尊重する子 	<ul style="list-style-type: none"> 創造性豊かな子 知的好奇心に満ちた子 	<ul style="list-style-type: none"> 進んで運動する子 食事を楽しむことができる子

3. 保育と教育の方針

- 子どもが進んで身体を動かして遊びを楽しむような環境づくりをする。
- 遊びの中で芽生える疑問や知的好奇心、文字や数量に対する関心などの、知的発達を促す場づくりをする。
- 保護者と連携し、日常生活における基本的な生活習慣が身につくように努める。
- 園内外における自然体験や社会体験を通して、豊かな感性や表現力を育てる。
- 野菜の栽培や生き物の飼育を通して、生命の神秘にふれさせ、また自然の恵みに感謝する気持ちをもたせる。
- 意欲をもって食に関わる体験を積み重ね、給食との関連を図り、楽しさと同時に食事のマナーを身に付けさせる。
- 園の内外における園児の安全と安心の確保のために細心の配慮を心がける。
- 身近なエコ活動を通して、身の回りの自然や生活への関心を深める。

4. 評価

自己評価の基準		関係者評価の基準	
A 職員評価の平均値と保護者評価の平均値を平均し、その値が90以上 B 職員評価の平均値と保護者評価の平均値を平均し、その値が、70以上 C 職員評価の平均値と保護者評価の平均値を平均し、その値が、70未満		A 園の自己評価を納得できる B 園の自己評価を大体納得できる C 園の自己評価をあまり納得できない D 園の自己評価を納得できない	
領域	評価の観点	自己評価	関係者評価
運営の体制	1. 教育・保育の充実	A 行事や遊びを通して、子ども一人一人の成長を感じることができた。コロナ禍の中、職員は、指導の工夫に努め、その成果を保護者に理解していただいた。	A ・感染対策は今年もしっかりとできていた。 ・園の評価に納得できます。
	2. 施設・設備の活用	A コロナ感染予防をしながら、雨天時でもホールで元気いっぱい遊ぶなど、施設・設備の有効利用できた。	A 園の評価に納得できます。
	3. 危機管理・安全管理	A 毎月の様々な避難訓練や、定期的な安全点検及び日々の連絡会の申し送りにより、危機管理意識が高まり、安全教育の充実を図ることができた。	A 園の評価に納得できます。
	4. 信頼・連携	A コロナ禍の中にも安心して相談できるような体制・環境作りに努めることで、保護者との信頼関係は深まった。	A ・保護者との連携はとれている。 ・園の評価に納得できます。
	1. 道徳性の涵養	A 日常の保育の場面や、絵本や紙芝居等を利用しながら、場面に応じた指導を行ってきた。結果から保護者からの信任は受けているが、今後、その状況をどのように保護者に伝えていくかが大きな課題と考えている。	A 園の評価に納得できます。

日 々 の 保 育	2. 生活習慣の育成	A	大切な保護者との情報交換を密に行うことができた。今後も連絡ノート等の活用や新たな情報発信に尽力していきたい。	A	園の評価に納得できます。
	3. 健康・安全指導	A	個々の健康情報や感染症の情報提供、発育測定、健診の結果報告を通し、保護者との情報共有に努めた。	A	・よくできている。 ・園の評価に納得できます。
	4. 遊びを通した指導	A	今後も一人一人の発達に応じた関わりを通し、興味関心・意欲を引き出し、幼児期に必要な体験ができるよう努めていく。	A	・園の評価に納得できます。 ・今後、「とてもそう思う」を増やす努力をしてほしい。
	5. 幼小の接続	A	中央校と幼保小連携会議、1年生との交流会、担任との情報交換会を行ってきた。子どもたちは期待と安心感をもち、小学校への就学ができるものと考えている。	A	・今回、小学校訪問ができて良かった。 ・とても楽しく希望が持てた。 ・園の評価に納得できます。
	1. 身近な人々との かかわり	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、特に地域の方との交流ができなかった。(評価対象外)			
地 域 と の 連 携	2. 食育の推進	A	給食室便り、ホームページを通し、食育について、また季節の食材(旬の野菜)の活用など保護者への広報を充実した。今後も、家庭と密に連携しながら取り組んでいきたい。	A	・豚汁作りなどとても楽しくできていたと思う。 ・園の評価に納得できます。
	3. 生命の大切さに気付く 環境作り	A	昆虫や小動物の飼育、野菜や草花の栽培などの体験を通して、自然とのかかわりを大切にしてきた。その成果が結果として表れている。	A	園の評価に納得できます。
	4. 読書の大切さと啓発	A	毎日の読み聞かせで、絵本のおもしろさを引き出し、子どもが自分の世界を膨らませ、文字への興味にもつながっている。	A	園の評価に納得できます。
	5. 開かれたこども園	A	コロナ禍の中にも、保育参観や園主催の行事については、開催を前提に計画を進めた。また保護者参加の人数も1→3人と感染防止対策に努め、緩和してきた。保護者からは好評だった。なお、今後も日常の園生活や行事等の連絡は、こまめなメール配信に努めると共に、園のホームページ(ひしのみブログなど)を活用し、園生活や教育活動の周知に努めていく。	A	・工夫しながら、行事等が開催できたのは良かった。 ・来年度はホームページをよく見てもらえるよう、園便りなどにQRコードを付けてみるのも良い。 ・園の評価に納得できます。

5. 関係者委員会のコメント

○送迎バスの事件があったり、虐待の事件があったりと、園を取り巻く環境は、決して安泰とは言えない状況にありますが、園の職員さんの前向きな発言や行動は、以前よりは確実に進歩・成長していると感じます。園長先生を始め、職員のみなさんの子どもたちに対する取り組み、保護者の方々への理解を深める努力は高く評価できます。更に人間関係の向上と子供達への成長・育成のために弛まぬ努力を続けられることを望みます。

○保護者・職員ともに、肯定的な評価が、非常に高いことに驚きました。特に職員の評価は、全て100%とベクトルを揃えて保育にあたられているところが素晴らしいと思います。コロナ禍の中、保護者との関係作りも大変だったと思いますが、送り迎え時の言葉かけやホームページ等での情報発信等日々の積み重ねが保護者の評価にも表れていると思いますし、参考になります。今年度から、保護者自身の自己評価も取り入れられているところが啓発につながり良かったのではないかと思います。

○全体的に高い評価で申し分ありません。これは、貴園の先生方の日頃からの研修や研究会、研究発表会等を通した質の向上への努力の結果だと思います。これからも親と子も、そして職員も共に成長していく環境であって欲しいと願っています。

○貴園の運営、教育・保育活動共にすばらしく、それは職員の自己評価・保護者の評価にも表れていると思う。ただ保護者に「分からない」が少々見られるので園児の年齢もあろうが、保護者にも分かりやすいように、より具体的に事例を増やすようにすると理解が進むと思われる。

○この3年間の評価の推移を見ると、令和4年度はほとんどの項目で「とてもそう思う」のポイントが高くなっている。とても良い結果だと思う。しかし、その中で「遊びを通した指導」、「開かれた園づくり」が令和3年度より少し低くなっている。特に「遊びを通した指導」は、園の保育方針としても重要な内容なので、ここの理由を探ることは必要と思われる。

6. 総合評価と次年度への課題

今年度も、園児や職員並びにその家族を守るため、旭学園と連携し、多久市の支援を受け、感染防止対策の充実を図って参りました。今年度の教育活動も新型コロナウイルス感染症対策のため、園行事や教育・保育活動に制限がありました。ただ、園の教育・保育活動を充実していくためには、保護者の理解・協力・支援が不可欠です。特に園の行事は開催を前提に内容や実施方法を工夫し、感染防止対策を十分に練って保護者の参観数も1名から3名と緩和し実施してきました。

遠足、PTA総会、保育参観、夏祭り、運動会、わくわくの会、ミニ音楽会などは、PTAと連携し、実施することを前提に実施方法を工夫し開催しました。また、ホームページ(特にひしのみブログ)を活用し、園の教育・保育活動の啓発・周知に努めました。

さらに日々の教育・保育活動にも様々な制限がある中、自発的な遊びを通した様々な体験を行う「子ども中心の教育・保育」を行い、子ども一人一人の成長や発達を促すことに努めて参りました。

自己評価アンケート結果では、今年度も昨年同様、すべての項目(13項目)がA評価でした。(ただし、「身近な人々とのかわり」は、コロナ禍により身近な人との交流ができませんでしたので評価対象から外しました。)

「食育の推進」は昨年度、評価はA評価ながらも「思う」が90%でしたが、今年度は100%との評価をいただきました。実際の取組を給食室便り、ホームページ、ブログ等を通、幅広く、広報に努め、理解していただいた成果と思います。

関係者評価委員の方からは、コロナ禍の中、保護者から本園の教育・保育活動は十分に信頼されていますが、学校評価について、どの年齢層にも内容(指標)が理解されるような工夫の必要性や評価段階4の「とてもそう思う」が昨年度より低くなった評価の観点の、分析と改善についてのご意見をいただきました。

研修では、全員研究保育及び研究協議を行うと共に、園外研修(オンデマンド、リモート、ズーム等含む)にも参加し、研鑽を深め、職員の資質向上を図りました。このことは本園の乳・幼児教育の質の向上に繋がっていると考えます。

これからも「やさしく、かしこく、たくましい」ひしのみの子どもの成長を願って、「情報発信」・「コミュニケーション」・「情報共有」をキーワードに様々な工夫を行い、課題解決と共にひしのみこども園の“教育・保育”の質の向上を図っていきたいと思います。

